

「学生の教育力活用」が全学展開に!

教育開発支援センター長 田中 俊也

大学における学部学生・大学院生（以下単に「学生」とする）は、それぞれの学びを求めて大学に来ています。大学教員は教えを提供し、大学職員はその教え・学びの環境作りに精励するといった形で、従来、大学の構成員はその役割を明確に分化しているようにみなされてきました。

ところが実際には、学生は単に教育を受ける役割を担うだけではなく、教育をする側に立ちうる潜在的な力を秘めています。高校までと違って、異なる年齢が混在する大学の授業においては、少し先をいく者が初学者を、上位学年が下位学年を、院生が学部生をサポートできる可能性が十分にあります。また、授業に入って直接教育のサポートをするわけではありませんが、前後の授業準備・片づけ等の手伝いで間接的なサポートをする形もあります。

教育開発支援センターではこれらを「学生の教育力活用」という形で精査し、平成25年度より全学的に展開させることになりました。その内容は以下の通りです。

まず、学生の教育力を、授業の前後の準備・片づけといった比較的事務的な業務と、授業に入って教員の指導のもとで他の学生の学習援助・補助をする業務に分ります。前者は「授業支援SA（ステューデント・アシスタント）」という名称で、既に数年前から制度化されて動いていました。各学舎の授業支援ステーションに、希望する学生の中から選ばれた学生たちが交代で常駐し、先生方の授業の周辺的な補助を行っています。

この度は、この授業支援SAに加えて、授業に直接入って他の学生の学びを補助する役割を担う制度を全学的に展開する事になりました。具体的には、TA（ティーチング・アシスタント）と、LA（ラーニング・アシスタント）制度の創設です。学内には既に、今回計画したTAや

LAと同等の制度を学部・研究科独自の方針で動かしていた部署もあり、今回の制度はそれらには適用せず従来通りの運用を尊重し、新たな、全学的制度として位置付けることとしました。

TAは、主に大学院生が担い、教員の指導のもと、その授業の教育内容に踏み込んだサポートを他の学生に対して行います。これまで長く「試行的TA制度」という形で教育開発支援センターが比較的小規模に運用してきたものを、その効果検証を踏まえて、全学的に規模を広げて発展させたものです。TAは、将来大学の教員になる可能性も秘めた大学院生が担うという意味で、その院生への教育という意味合いも強く含まれています。

一方、LAは、主に初年次教育等、高校までの「学習」スタンスと大学に入ってからの「学び」のスタンスの差をできるだけ早期に解消すべく学び方を学ぶことに特化された授業の補助をする者です。そうした授業で既に学んだ経験のある学生が、初学者の学び方をサポートします。したがってここでは、授業での各論の深化のサポートを期待するものではありません。例えば初年次教育の授業で、ディスカッションの方法の習得を目標に、題材として「わが国のエネルギー政策」を扱った場合、エネルギー政策という内容に踏み込んだサポートではなく、ディスカッションの方法を教えるファシリテーターやモデルの役割を担います。

TAやLA、授業支援SAを全学的な制度として展開することによって、教え手、学び手、環境整備者という教育の全体像を学生自身が把握できる意味は大きなものがあります。スタートしたばかりの全学制度、不備なところは修正しつつ、関西大学の大きな誇りとして育てていくことにご協力いただきますよう、お願い申しあげます。



年度末を間近に迎えるにあたり、今年度のCTLの取り組みと成果を振り返ってみたいと思います。2008年10月のCTL開設以来、もっとも目まぐるしく、様々な取り組みが展開された1年だと感じています。

文学部が卒業論文を中心に取り組んでいたライティング指導のGPを継承し、全学展開するために「ライティング支援プロジェクト」を立ち上げました。その後、津田塾大学と大学間連携共同教育推進事業に『〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援』の取組名称で申請し、採択されました。津田塾大学との連携にはTV会議システムを活用しますが、時には

津田塾大学を訪問し、Face to Faceの対話でもって運営を進めています。

TAやLAという学生の教育力を活用し、学生が主体的に学び、教育の質保証を目指した授業改善を推進するために、「TSネットワークプロジェクト」と「全学TA制度制定ワーキンググループ」を発展的に改組し、「学生の教育力活用プロジェクト」に再編成しました。これまで試行的に実施してきたTAやLAを活用した授業の実施結果を分析・検証し、TAやLAに関する規程と活用ガイドラインを制定しました。今後も分析・検証を繰り返し、より良い制度となるよう目指しています。

私立大学活性化設備整備事業に『「考動力」を育む学習環境「コラボレーション

コモンズ」の構築』の取組名称で申請し、採択されました。授業時間外学習、学生の主体的な学び、他者との共同学習を可能とした場を、凜風館1階の学生ラウンジに整備し、グループ討議等で自由に使えるパソコンやホワイトボード等の貸出サービスも行います。

紙面の関係で今回ここに記せなかった多くの取り組みや成果も、大学の授業改善というキーワードの基に有機的に結び付いています。これらの取り組みの実質化に向けて、より多くの先生方に賛同・参画していただけるよう、草の根運動的な地道な活動も大切にし、CTLの存在感が高まるることを期待しています。

(恒)